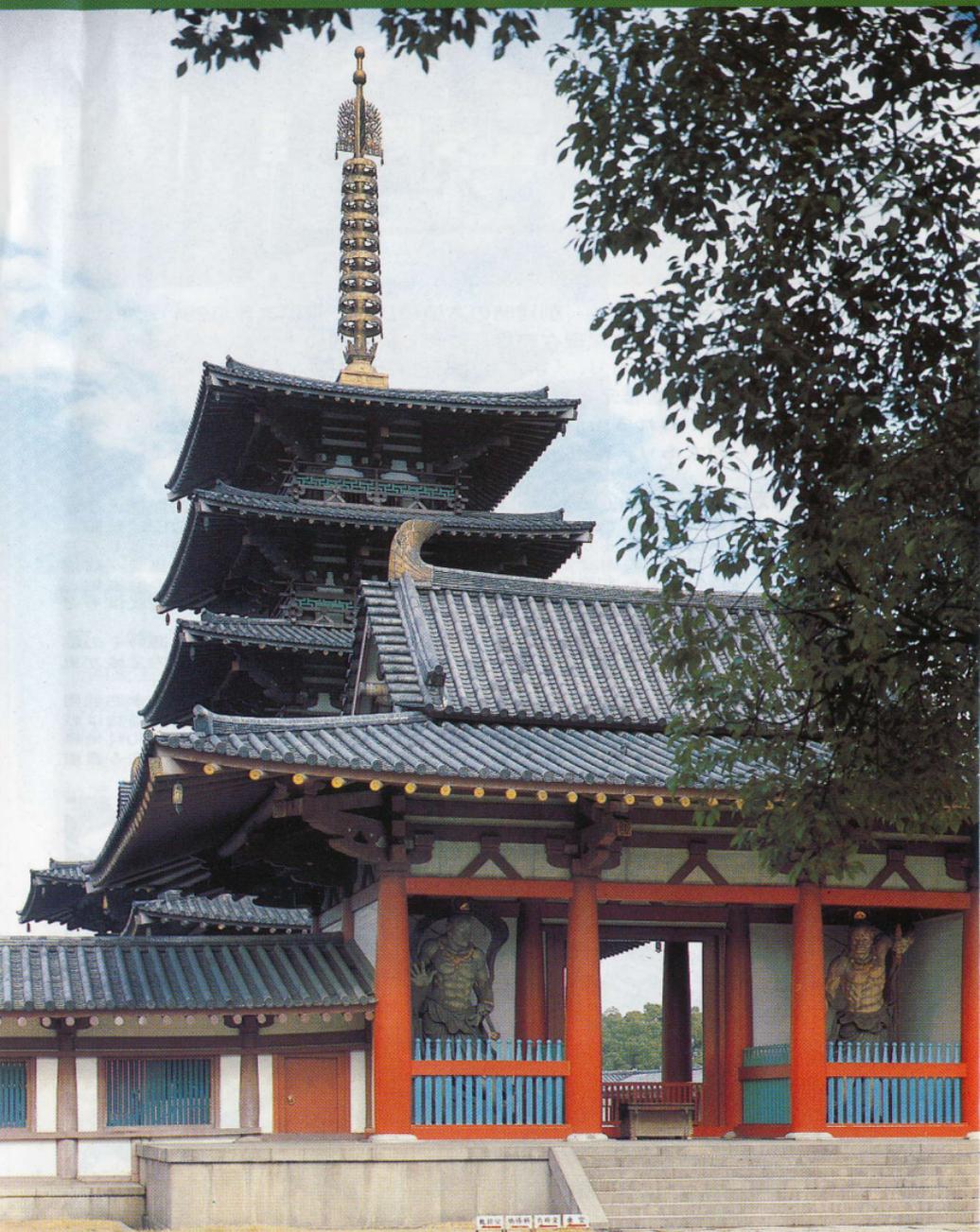


SHITENNOJI TEMPLE

四天王寺



総本山 四天王寺 大阪市天王寺区四天王寺一丁目11番18号

URL:<http://www.shitennoji.or.jp> TEL.06(6771)0066



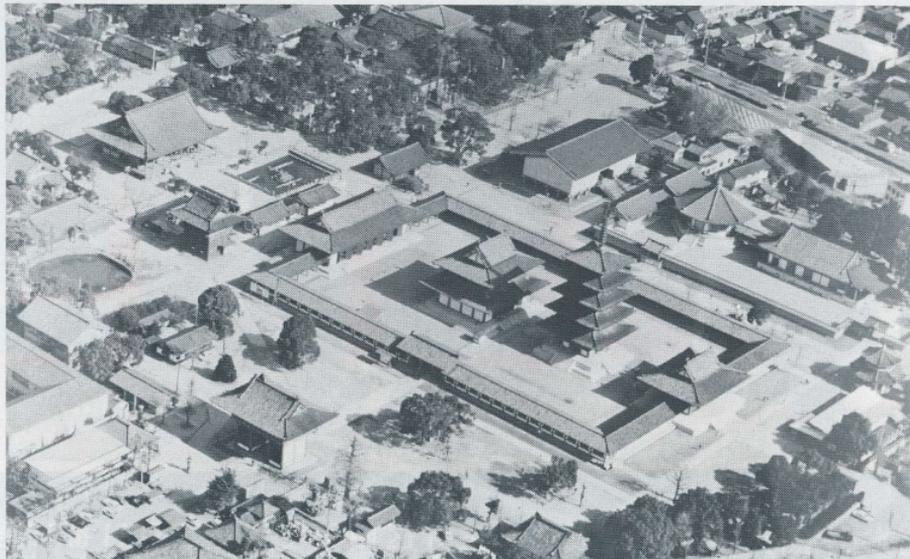
石の鳥居 (重要文化財) 創建時の木造の鳥居を永仁二年(1294)忍性上人が勅を奉じて石造に改めたのが現在の鳥居である。鳥居の中央に高さ1.5m、横1.1mの鉄銅製箕形の扁額があり、「釈迦如来転法輪処当極楽土東門中心」と浮彫風に鑄出している。〔裏に嘉暦元年(1326)の銘が有る〕

平安時代のもものといわれる山形市成沢の八幡神社の鳥居と山形市小立にある石鳥居につぐ古いものであり、昭和9年1月30日重要文化財に指定されている。

【四天王寺縁起】 四天王寺は今から約1400年以前、推古天皇元年(593)に聖徳太子が建立された日本仏教最初の官寺である。太子が当寺を創建されるに当っては敬田、悲田、施薬、療病の四箇院を構え、以って鎮護国家の道場としてまた濟世利民の実践所として物心両面の救済により平和国家の樹立と文化国家の莊嚴をはたされ、その意味で当寺が政治外交上の中枢となったのみならず美術工芸産業等あらゆる方面に於て日本文化の発生地となったのである。それ以後、当寺は太子の偉業について教学伝道等本来の使命達成はもとより社会教育・福祉事業・仏教の興隆等の充実につくして現在に至っている。

当寺の寺域は33,000坪(約11万㎡)、堂塔伽藍は創建以後度重なる戦火天災に遭いその都度再建を重ねて来たが常に寺域と伽藍配置は飛鳥時代創建当初の姿を伝え、境内全域が史跡に指定されている。

昭和20年3月14日の空襲によって七堂伽藍の大半は焼失したが、西門石鳥居、本坊通用門、六時堂、五智光院、元三大師堂、湯屋方丈などの元和(1615~1624)再建の建築物は戦火をまぬがれ、昭和29年9月17日重要文化財に指定され、中心伽藍は、昭和38年10月飛鳥時代創建当初の様式、結構を再現復興したもので所謂四天王寺式伽藍配置の今に在る貴重な遺構として文化的に優れた価値を有するものである。



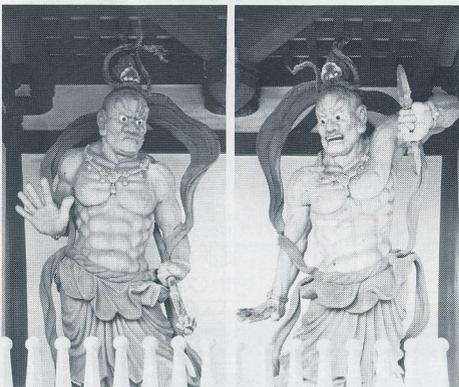
現在の四天王寺境内



金堂四天王寺御本尊救世観世音菩薩尊像



講堂御本尊阿弥陀如来尊像



中門仁王像

金堂

四天王寺の本尊である救世観世音菩薩が安置されその四方に四天王像を祀っている。堂内の西に舍利塔、東に六重金塔がある。舍利塔内には南無仏の舍利を安置し、毎日午前11時より如意輪供の秘法を行い、舍利出しの法儀を奉修している。六重金塔には信者の精霊塔婆を安置している。

現在の金堂は昭和36年3月の再建で、推古天皇元年創建当初の姿を再現したものであり、特徴として、主屋裳階式の建築・屋根は鉸葺・直線的・檼の配置が扇檼であるなどが上げられる。

堂内壁画は中村岳陵画伯の筆で釈尊の誕生・出城・降魔成道・初転法輪・涅槃などの図が配されている。

講堂

聖徳太子が法華経・勝鬘経を講讀された所であり講法堂ともいう。

堂内は夏堂と冬堂とに別れ、冬堂には十一面観世音菩薩、夏堂には阿弥陀如来坐像を祀っている。特に夏堂の阿弥陀如来坐像は京都の松久朋琳・宗琳両四天王寺大仏師により造られたもので、基壇から頭上まで約6m有り、昭和の丈六仏として親しまれている。また十一面観世音像と共に光背が二重になっており後の光背にはご信徒の結縁による千躰仏が奉安されている。

堂内壁画は郷倉千靱画伯の筆で画題は「仏教東漸」のテーマに沿って玄奘三蔵の事跡を構成したものである。

毎月17日には八講会の法儀が堂内にて厳修される。

中門（仁王門）

中門は当寺中心伽藍の最南端にあたり、脇の間に仁王尊像を祀っていることから俗に仁王門と呼ばれている。東側(向って右)は那羅延金剛力士、西側(向って左)は密迹金剛力士であり、四天王寺大仏師松久朋琳氏の作である。

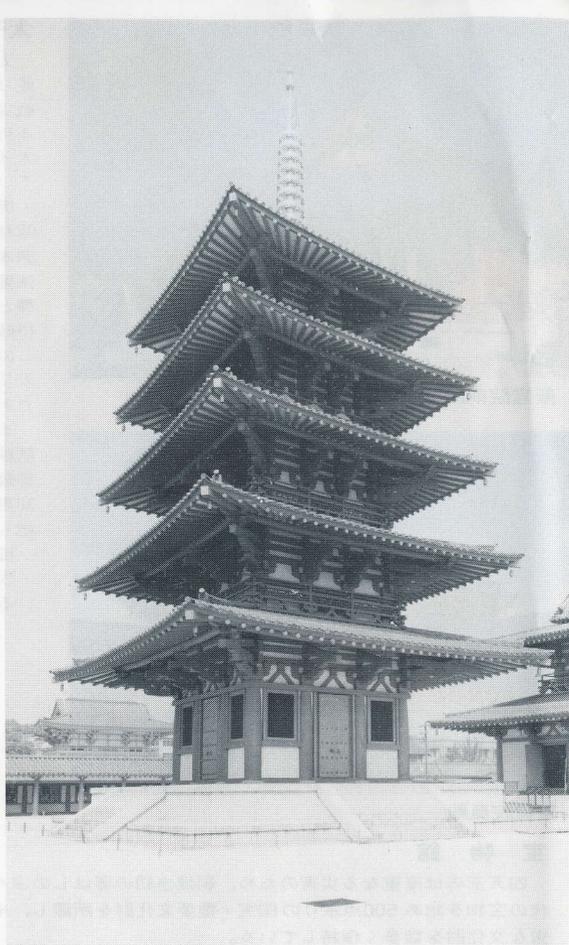
この仁王像の重さは約1トン、身長は5.3m、顔の長さ70cm、足の親指の幅だけでも13cmもあり、大きさでは奈良東大寺の仁王様に次いで我国で2番目に数えられる。

五重宝塔

推古天皇元年(593)聖徳太子の創建以来度々重なる戦火天災により伽藍が焼失したが、その都度再建を重ね現在の塔は昭和34年8度目の再建である。造りは鉄骨鉄筋コンクリート(屋根は本瓦葺)であるが、木造建築の優美さを伝え、飛鳥時代創建当時の姿を再現したものである。ことに相輪(上部の九つの輪)の高さが塔全体の三分の一に達すること、檼勾配と屋根勾配が緩かであることなどが特徴である。

最上層部に舍利塔を奉安し、そこからは大阪市内が一望に眺められる。塔の総長39.2m、相輪の長さ12.3m。

塔内壁画は山下摩起画伯の筆で、中心壁画に釈迦三尊像(南)弥勒三尊像(北)薬師三尊像(東)阿弥陀三尊像(西)の四方四仏が描かれ、外壁には、釈迦十六弟子說法図・弥勒兜率竜華浄土二十五菩薩来迎図が配されている。

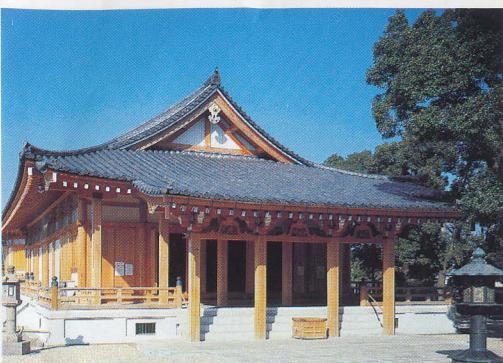


The Outline of the Shitennoji Temple

The Shitennoji Temple was first established about 1400 years ago by Prince Shotoku's request not only for the purpose of worship of Buddha images, but also for the benefit and welfare of mankind as well as for the safety of the State, and hence organic and systematic equipments for promoting social welfare have been organized.

The following are the institutions established for this purpose. (1) The Keiden-In (2) The Se-Yaku-In (3) The Ryo-Byo-In (4) The Hi-Den-In. These are remarkable feats of epoch-making enterprise of the "social settlement" of today. All of us, disciples of Prince Shotoku are always endeavouring to achieve and fulfil the holy ideas of these various branches of social welfare.

The temple precincts cover some 110,000m² and are designated as rare historic remains. Each time the monasteries were damaged by wars or by natural calamities, they were reconstructed after the example of the Buddhist style of original architecture of Asuka period in the decoration and arrangement of the buildings.



聖霊院前殿



聖霊院奥殿

宝物館

四天王寺は度重なる災害のため、創建当初の姿はしほのぶべきもないが、創建時代の宝物を始め 500点余りの国宝・重要文化財を所蔵し、その他これに準ずる貴重な文化財を数多く保持している。

現四天王寺宝物館は昭和45年10月17日完成、中心伽藍の東側、太子殿の北側に位置し、これら寺宝を展観して参詣の人々に当寺の姿を理解していただくと共にわが国仏教文化の全般を広く皆様方に認識していただくために開館されたものである。

主な宝物

- 国宝・紙本墨書「四天王寺御手印縁起」平安時代
- 国宝・紙本著色墨書「扇面法華経冊子」平安時代
- 国宝・金銅「威奈大村骨蔵器」奈良時代
- 重文・木造「阿弥陀如来及両脇侍像」平安時代
- 重文・金銅「観世音菩薩半跏像」奈良時代
- 重文・絹本着色「聖徳太子絵伝」鎌倉時代
- 重文・鳴鐘矢 飛鳥時代
- 重文・漆皮箱 奈良時代



国宝扇面法華経冊子

太子殿 (聖霊院)

太子殿は前殿・奥殿から成り、昭和20年3月14日の戦災で焼失したが昭和29年4月10日前殿を再建、聖徳太子十六歳孝養像を安置している。奥殿は経堂・絵堂・虎の門・猫の門とともに昭和54年10月落成し、各宗派本山の奉讃により落慶大法要が10日間行われた。本尊として聖徳太子四十九才撰政像が安置されている。この太子撰政像は四天王寺大仏師松久朋琳・宗琳の作である。

また、基壇内には信徒の結縁による万体仏六観世音菩薩(水子・極楽・施薬・知恵・厄除・子育て観音)が祀られている。

毎月22日には、太子法要・六観音法要が厳修されている。

◆年中行事

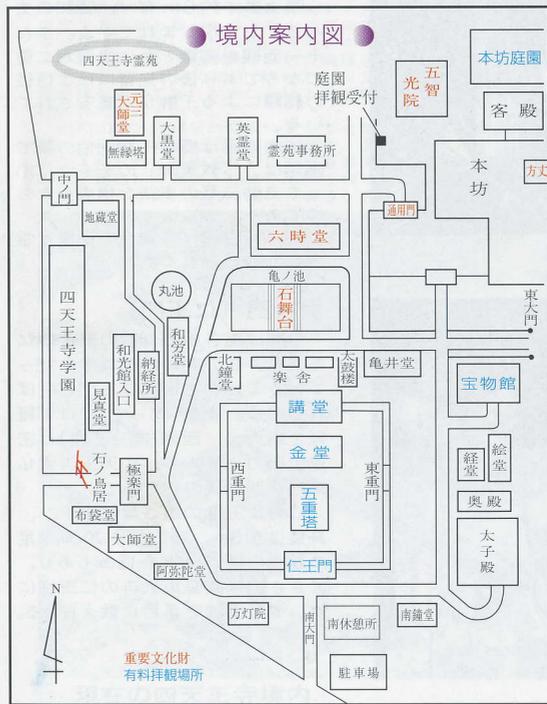
月	日	行 事	月	日	行 事	
1	1	初詣、朝拝式、万斛会	8	4	篝(かがり)の舞楽	
	12	生身供		9~10	千日詣り	
	14	修正会結願法要(どやどや)		13~16	孟蘭盆会	
2	3	節分会星まつり	9	19~25	秋季彼岸会 (年度によって日程が一部変更となります。)	
	15	涅槃会		10	10	万灯院衣替会式 経供養(椽の下の舞)
3	17~23	春季彼岸会 (年度によって日程が一部変更となります。)	10	10	22	四天王寺秋季大学
	1~30	十三まいり		12	8	成道会
4	8	仏誕会	31		31	除夜の鐘、開運の鐘、招福の鐘
	22	聖霊会舞楽大法要				
5	初旬	授戒灌頂会				

◆月例行事

- 毎月 3日 元三大師会
- ◇ 17日 講堂八講会(講堂)
 - ◇ 21日 お大師会・辯才天法要
 - 22日 聖徳太子会
観音供会(太子殿・奥殿)
 - ◇ 24日 地藏尊会式
 - ◇ 25日 歴代墓前回向
 - ◇ 28日 不動尊会式・護摩供

◆定例行事

月	2	回	参禅会(午前6時半より)
毎	月		仏教文化講演会(午後2時より)
第	三	土	曜日
庚	申		こうしん 庚申まいり かのえさる 庚申の日とその前日(庚申堂)
毎	月	日	大黒天まいり(大黒堂)
毎	月	日	一心大神例祭(本坊庭園)



拝観時間

- 4月~9月 8:30~16:30
- 10月~3月 8:30~16:00

設備

- 休憩所 …… 250人
- 駐車場 …… 35台
- 拝観所要時間 …… 30分

有料拝観場所

中心伽藍、宝物館、本坊庭園

当寺への交通機関

- 地下鉄谷町線四天王寺前夕陽ヶ丘駅下車南へ徒歩5分
- JR・地下鉄天王寺駅、近鉄あべの橋駅下車北へ徒歩15分
- 市バス四天王寺西門前バス停車すぐ
- 名神高速、豊中インターチェンジより阪神高速に入り、環状線夕陽丘出口を経て当寺へ(約30分)